

# 令和7年度事業計画

自 令和7年4月1日  
至 令和8年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

## 目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(6)
3. 編集委員会	(6)
4. 学術委員会	(7)
5. 統計調査委員会	(10)
6. 専門医制度委員会	(11)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(12)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(14)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(14)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(15)
14. 男女共同参画推進委員会	(16)
15. 感染対策委員会	(17)

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第70回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学 教授 猪阪善隆会長が主宰し、2025年6月27日（金）、28日（土）、29日（日）の3日間、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪他を会場として開催する。

今回のテーマは「いのち輝く未来社会の透析医療」を掲げて開催する。

#### <招待講演>

「Cardiovascular Effects of Home Dialysis Therapies」, 「CKD-MBD treatment in dialysis patients : guidelines and developments」

#### <特別講演>

「多様な個性の力を発揮し、いのち輝く社会へ」, 「医療イノベーション創出におけるアカデミアの役割」, 「アバターと未来医療」, 「生命を捉えなおす～動的平衡の視点から～」, 「透析を止めた日」, 「透析導入期加算を通じた重症化予防の推進と深化した共同意思決定の推進について」

#### <会長講演>

「いのち輝く未来社会の透析医療を目指して」

#### <教育講演>

「遠心分離法を用いたヘムアフェレシス」, 「急性血液浄化療法アップデート」, 「新しい尿毒素の定義に基づく血液浄化器の評価」, 「I-HDFの臨床効果を検証する」, 「VA作製の術前評価」, 「バスキュラーアクセス作製の術前評価」, 「エコーガイド下穿刺の基礎から実践」, 「IDHを防ぐ体液量設定方法～多軸の体液管理と透析の安定～」, 「透析アミロイドシスの診断と治療～整形外科の立場から～」, 「誰でもできるフットケアの実践～足のアセスメントと処置～」, 「透析患者の血糖管理」, 「サイバー攻撃に対するBCP」, 「腎臓リハビリテーションの実際」, 「PDにおける腹膜線維化について（基礎研究）」, 「腹膜透析の血液透析への移行, 併用療法への移行と中止について」, 「腎不全患者における臍または肝同時移植の適応と実際」, 「今後の移植医療のあり方について」, 「免疫学的ハイリスク腎移植の現状と今後の展望」, 「透析患者の悪性腫瘍」, 「HIF-PH阻害薬の最新アップデート」, 「CKD-MBDの基礎を学ぶ」, 「透析患者の心臓突然死の現状」, 「透析患者の心不全治療の現状と課題」, 「心不全合併透析患者の血行動態管理に役立つ心エコー図検査の見方」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCVにおけるCKDの意義」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCVに対するトリカプリン栄養療法」, 「おいしくリン制限をする食事療法の実践的アプローチ」, 「高齢透析患者特有の食事療法の問題とその対策」, 「腎不全患者の人生を豊かにする生活目標（Life Targets）の実践とその意義」, 「透析医療におけるACP」, 「優しさを伝えるマルチモーダル・ケア技術：ユマニチュード」, 「コーチングマインドで毎日を豊かにする」, 「透析現場におけるキャリア開発ラダーの作り方と活用」, 「看護師の特定行為の実践と課題」, 「透析医療におけるデータサイエンスの実践と展望—標準化から機械学習の臨床応用まで—」, 「医師におけるChatGPTの有効な使い方」, 「「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」, 「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」, 「透析排水の適正管理」

#### <合同企画シンポジウム>

日本循環器学会・日本透析医学会 合同企画：透析患者の心血管病治療の実践的アプローチ

日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会 合同企画：透析患者の骨折予防戦略

日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会 合同企画：透析患者に対する薬物治療の注意点～薬剤師の視点～

#### <シンポジウム>

「オンラインHDFの再評価」, 「異種移植～温故知新～」, 「透析患者の冠動脈石灰化結節を識る」, 「腹膜透析の遠隔医療」, 「貧血ガイドライン2024～臨床はどう変わるか?」, 「骨・ミネラル代謝異常の診療ガイド

ライン改訂の意図を読み解く」, 「患者の日常生活の「見える化」～遠隔モニタリング～」, 「AKI 診断精度の向上を目指して」, 「透析液組成の将来設計」, 「バスキュラーアクセス長期開存を目指した手術, 管理」, 「サイコネフロロジー診療ガイドと臨床現場での実践」, 「急性腎障害と血液浄化療法の現状と課題」, 「透析患者における nephrocardiology (Nephrocardiology in Dialysis Patients)」, 「CKD 患者が適切な造影剤検査を受けるための啓発活動」, 「透析患者の弁膜症カテーテル治療の進歩と今後の課題」, 「医療における人工知能研究・実装の最前線」, 「透析患者の脳血管障害～治療の最前線と今後の課題」, 「透析患者における抗凝固薬, 血栓溶解薬の適応を再考する」, 「透析患者の末梢動脈疾患の集学的治療」, 「災害時透析医療における広域関東圏での行政を含む地域連携」, 「もし CKD 患者が大規模災害に遭ったら, どうする? どうなる?」, 「HIF-PH 阻害薬のコントロバシー」, 「透析情報標準 HL7 FHIR 規格」, 「透析患者総数減少に関する検討, 分析」

#### <TSN-KSN-JSDT Joint Symposium>

「Dialysis treatment in an aging society」

#### <ワークショップ>

「在宅血液透析普及に向けて」, 「腎代替療法を受けている患者さんの声を聴く」, 「新生児・小児から移行期までの透析医療の現在地」, 「透析装置洗浄消毒・透析液清浄化の諸問題」, 「バスキュラーアクセス治療の最新動向」, 「次世代につなぐ! VA 関連手技をこう教えている」, 「【Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 合同企画】LIVE 動画から学ぶ! VAIVT 手技のコツ」, 「シャント関連疼痛をどうやって見分け, どうやって痛みを軽減している!?」, 「どうやってる!? VA 管理」, 「VA 看護の現状とこれから」, 「透析時運動指導等加算がもたらした透析医療の変革」, 「血液浄化における CE 業務の展望」, 「透析患者のビタミン・微量元素」, 「腹膜透析推進に向けた取り組み」, 「血液浄化における多職種連携を考える」, 「サルコペニアをめぐる疑問」, 「腹膜透析患者の地域連携推進のための取り組み」, 「私の栄養療法外来～これが私の指導法です」, 「私の施設の PD 診療～PD の始め方, 終わり方」, 「未来へ繋ぐ腎移植～移植医療を始めませんか～: 腎移植若手の会共催企画」, 「腎移植後管理～こんな時どうしますか?～」, 「今あらためて塩分について考える」, 「アフエレススが切り開く未来」, 「腎代替療法における DX」, 「全ての腎不全患者に届ける SDGs な腎移植を目指して」, 「血液浄化における高齢者看護」, 「腎不全患者への支援を考える」, 「腎臓病・透析患者のプレコンセプションケア」, 「若手研究者と考える臨床研究キャリアパス」, 「私の骨粗鬆症外来～プラクティスパターン開陳します」, 「透析患者の骨をめぐる疑問」

#### <学会・委員会企画>

腎不全総合対策委員会企画: 地域を踏まえた腎不全対策を考える

学術委員会企画: year in review 2024

感染対策委員会企画: 透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略

保険委員会企画: 令和 8 年度改定に向けて保険委員会の取り組み

統計調査委員会企画: JSDT 統計調査データを用いた臨床研究

感染対策委員会企画: バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防

男女共同参画推進委員会企画: TSUBASA PROJECT

危機管理委員会(災害対策小委員会)企画: 透析療法災害対策における広域・行政との連携 (Collaboration with Regional and Administrative Authorities in Disaster Management for Dialysis Therapy)

学術委員会(栄養問題検討ワーキンググループ)企画: 透析患者の栄養状態を解明する—SUDACHI study—

学術委員会(血液浄化に関する新技術検討小委員会)企画: 新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦

危機管理委員会(医療安全小委員会)企画: 透析医療における医療安全のための提言

学術委員会(末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会)企画: 末期腎不全患者の緩和ケアに関

## する提言

学術委員会 ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ：ウロキナーゼ非供給による透析医療への影響，そしてその対策

学術委員会（血液浄化の機能と効率に関する委員会）企画：血液浄化器（中空糸型）機能分類の改訂に向けて

学術委員会（栄養問題検討ワーキンググループ）企画：CKD 保存期から透析まで一貫した食事療法

統計調査委員会企画：WADDA システムをどう使いこなすか

専門医制度委員会企画：転換期を迎える日本専門医機構と透析医学会

学術委員会（バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ）企画：慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドラインの追補版作成の進捗状況

学術委員会（医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会）企画：医師の働き方改革やタスク シェアリングの発展のための課題

国際学術交流委員会企画：Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia

国際学術交流委員会企画：Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy

## <よくわかるシリーズ>

「血液浄化機の機能と選択」, 「血漿交換～アルブミン置換液の組成を中心に～」, 「AKI に対する血液浄化療法 up date」, 「日本における看護 DX（デジタルトランスフォーメーション）」, 「医療従事者のための AI 基礎知識～人工知能の仕組みから医療応用まで～」, 「カフ型カテーテル」, 「無敵の中心静脈カテーテル挿入手技」, 「ガイドライン, エビデンスから PD 関連感染症症例を考える」, 「小児の腹膜透析」, 「新人スタッフの個性を活かす教育」, 「腹膜透析処方考え方」, 「腹膜透析排液異常の鑑別と対応」, 「やってみよう！経皮的腹膜透析カテーテル挿入術」, 「腹膜透析患者の合併症」, 「透析患者の心房細動に対する抗凝固療法をどうするか」, 「今求められる透析患者の栄養管理・栄養指導」, 「CKD-MBD（慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常）（リン低下薬）」, 「腎移植レシピエントの感染症」, 「腎移植のこと～しっかりサポートするために～」, 「貧血治療～目標 Hb に達しない時の考え方～」, 「慢性透析患者における低栄養の評価と栄養介入の重要性」, 「透析患者の至適血圧」, 「生体腎ドナーを生涯にわたり守るために」, 「透析患者の皮膚病変とスキンケア」, 「腎臓リハビリテーションの現状と今後」, 「診察所見と症状からどう読み取る？」, 「透析室における感染対策」, 「Up-to-date apheresis」, 「シャントエコーの基本」, 「ビリーブメントカンファレンスの実際と意義」, 「医療連携を進めるために看護師ができること」, 「高齢腎不全患者の生き方に寄り添う看護」

## <企業共催シンポジウム>

「日本における PD の到達点へのプロセス～安定した PD の継続を再考する～」, 「透析患者の Ca 管理を再考する」, 「カルシウム, リン, PTH 管理の最前線 ～心血管・骨折リスク低減をめざした個別化医療～」, 「CKD・透析患者の腸内環境への治療介入（腸腎連関・心腎連関を考慮して）」, 「日本人の特性を考慮した透析患者の高リン血症治療戦略」, 「現代の治療に応じた透析アミロイドシス治療～患者 QOL 向上を目指した集学的治療～」, 「みんなで考えるストレスフリー穿刺～患者のための医療の提供を目指して～」, 「日本人のエビデンスから見る腎性貧血治療」, 「医療者・患者・患者家族にとって、より良い治療法の実践～メリットを適切に提供・享受するために～」, 「DOPPS シンポジウム」

## <ハンズオンセミナー>

「血管吻合ハンズオンセミナー」, 「エコーガイド下穿刺ハンズオンセミナー」

## <その他>

医療安全講習会 教育講演 18

「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」

医療倫理講習会 教育講演 19

「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」

感染対策講習会 教育講演 20「透析排水の適正管理」

2025年7月1日（火）正午～7月31日（木）23：59まで（会期後オンデマンド配信）

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修

※全てオンデマンド配信となります。詳しくは総会ホームページをご確認ください。

## 2) 通常総会

(1) 第70回通常総会開催：2025年6月27日（木）16：00～17：00

(2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：2025年6月28日（土）

## 3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2025年6月13日・6月26日・12月12日・2026年3月26日

(2) 監事による監査会開催：2025年5月13日（火）

## 4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

## 5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会（脇野 修委員長）

学会ホームページの円滑な運営，内容充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② コンテンツを見直し，逐次更新する。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）

① 慢性腎臓病療養指導看護師（平成29年9月から施行）に関する助言と問題点への対策を行う。

② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

③ 管理栄養士育成事業として，日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD分野）における助言を行う。

④ 腎代替療法専門指導士の応募専門資格・資格更新については，日本腎代替療法医療専門職推進協会と引き続き協議を継続する。日本腎代替療法医療専門職推進協会に新規に参入希望の指導士資格に関しては，協議を推進する。

(3) 統計調査のあり方小委員会（友 雅司委員長）

① あらたな諸法の整備に適応して，統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。

② 統計調査結果の解析，論文化の計画の明確化，会員施設へのインセンティブを検討する。

③ 統計調査委員会と意見交換を行い，統計調査のIT化の方向性を模索する。

④ 統計調査データのWEB収集及びEDC（electric data capture）システムに関わる調査等を実施し，具体的な仕様をEDC推進検討ワーキンググループと合同で検討する。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

① 委員会は年に2回，オンラインで実施する。

② 昨期に続き，第70回日本透析医学会学術集会・総会（令和7年6月，大阪市）に合わせて，日本での研修を実施する。ベトナム透析学会推薦の4名，カンボジアからの1名を対象と，日本透析医学会に3日間参加したのち，畿内の5施設で研修を予定している。

(5) 本学会のあり方小委員会（武本佳昭委員長）

① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。

- ② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構、日本内科学会との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。

(6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）

- ① 2025年6月開催の第70回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
- ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、e-テストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加してすでに生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のe-ラーニングでの単位は認定しない。
- ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴を可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。

(7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。以下に示すガイドライン、診療ガイドラインの改訂等作業が関連のワーキンググループの中で進行中である。これらの事業は学術委員会とも連携しながら進めていく必要がある。

- ① 透析患者の糖尿病治療ガイド2025
- ② 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン
- ③ 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン
- ④ バスキュラーアクセスガイドライン追補
- ⑤ 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言
- ⑥ 透析患者の血圧管理に関する診療指針

(8) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）

台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会は、2025年度では日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3学会の年次学術大会を下記の通り開催する予定。

- ① 第70回日本透析医学会学術集会・総会（6月27日から29日にて開催予定、具体的日時未定、日本大阪）  
テーマ：「Dialysis treatment in an aging society」

(1) 座長：

- 1. 日本透析医学会：現在小委員会より友 雅司理事長、武本前理事長に打診中
- 2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
- 3. 韓国腎臓学会：現在韓国腎臓学会で検討中（韓国腎臓学会が派遣）

(2) 演者・演題：

- 1. 日本透析医学会：現在小委員会より友 雅司理事長、武本前理事長に打診中
- 2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
- 3. 韓国腎臓学会：現在韓国腎臓学会で検討中（韓国腎臓学会が派遣）

- ② 韓国腎臓学会（2025年6月20日10：40～12：40開催、韓国ソウル）

テーマ：「Shared Decision-Making for ESKD Patients」

(1) 座長：

- 1. 日本透析医学会：友 雅司（大分大学）
- 2. 台湾腎臓医学会：台湾腎臓医学会が派遣

3. 韓国腎臓学会：韓国腎臓学会が派遣

(2) 演者：

1. 日本透析医学会：小松康宏（板橋中央総合病院）

演題名：Shared Decision-Making for Dialysis：Japan

2. 台湾腎臓医学会：台湾腎臓医学会が派遣

演題名：Shared Decision-Making for Dialysis：Taiwan

3. 韓国腎臓学会：韓国腎臓学会が派遣

演題名：Shared Decision-Making for Dialysis：Korea

③ APCN2025 と台湾腎臓医学会共同開催（2025年12月5日～7日開催，具体的日時未定，台湾台北）

テーマ：未定

(1) 座長：

1. 日本透析医学会：未定（日本透析医学会が派遣）

2. 台湾腎臓医学会：未定（台湾腎臓医学会理事会が派遣）

3. 韓国腎臓学会：未定（韓国腎臓学会理事会が派遣）

(2) 演者：

1. 日本透析医学会：未定（日本透析医学会が派遣）

2. 台湾腎臓医学会：未定（台湾腎臓医学会が派遣）

3. 韓国腎臓学会：未定（韓国腎臓学会が派遣）

(9) VA 血管内治療認定医制度委員会（深澤瑞也委員長）

① 昨年度の VA 血管内治療認定医制度委員会の認定作業時に生じた，さまざまな事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に，本年度の申請に関する改善点をまとめる．本年度の申請に対する条件を会員に可及的速やかに公表し，本年度の申請に向けての準備を行っていただくこととする．

② 申請作業は，既存の構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請，その後，抽出症例の提示を経て内容の審査を委員に依頼し判定を行う．専門医制度委員会審査において，個人情報保護法の遵守による審査強化を受け，当審査においても個人情報の取り扱いに関しては厳しく望むこととする．また生じた疑義に関しては，本年度の判定基準に基づき委員長が再審査し，最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行う．結果は理事会に報告し最終決定とし，本人に対して血管発表並びに認定証の交付を行うこととする．また本年度の申請においても，生じた問題点，疑義解釈に対しては，昨年度同様に委員会内で統一見解を作製し翌年度以降の委員会への申し送りを行う．

## 2. 財務委員会

平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され，これに伴い本学会も平成 24 年 9 月 3 日付けをもって，一般社団法人に移行した．一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準に則り，新・新基準による経理を実施し，貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして，より適切な財務管理を目指す．

以上を踏まえて，税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し，学会として各常置委員会，小委員会の諸事業を積極的に推進し，多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する．

## 3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊，年間12冊をオンラインで発行する。
  - (2) Year in Review 2024 の原稿を受け，2025 年和文誌 58 巻のしかるべき号に掲載する。
  - (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2025 年和文誌 58 巻 12 号に掲載する。
  - (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement としてオンラインで発行する。冊子体の発行および郵送は廃止とする。
  - (5) 年間1回を目安として特集号を企画する。また，Invited Review という形でその領域の専門家に依頼し，掲載していく。
  - (6) 2025 年度からの完全オンライン化を継続する（2024 年末で冊子体の発行を廃止した）。
- 2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について
- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で，CC-BY の著作権で引き続き発行する。
  - (2) 2023 年 6 月に Journal Citation Reports (JCR) の Impact Factor を取得した。PubMed Central での Index 化の再申請を2023 年中に行ったが，不採択の審査結果であった。2025 年に再申請を行う。
  - (3) RRT 誌は下記の9学会の公式英文誌となっている。これらの各学会のガイドラインや報告レポートなどを Position Paper として順次出版する。
    - ・ Japanese Society for Dialysis Therapy (JSDT)
    - ・ Japanese Society for Clinical Renal Transplantation (JSCRT)
    - ・ Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)
    - ・ Japan Society for Blood Purification in Critical Care (JSBPCC)
    - ・ Japanese Society of Renal Rehabilitation (JSRR)
    - ・ Japanese Society of Nephrology and Pharmacotherapy (JSNP)
    - ・ Japanese Society for Pediatric Renal Failure (JSPRF)
    - ・ Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)
    - ・ Japanese Society for Technology of Blood purification (JSTB)
  - (4) すでに採用済の海外からの Editorial Member を Advisory Board Member として引き続き編集業務の関与を依頼する。
  - (5) Impact Factor 取得後，投稿論文数が増加した。そのため Editorial Member の増員が必要な状況であり，採用各学会に人材の推薦を依頼するとともに，独自にも Editorial Member (Associate Editor および Editorial Board) を採用していく。
  - (6) 第70 回日本透析医学会学術集会・総会において，台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学会の3学会合同シンポジウムが，開催される予定である。その各国の講演内容を論文投稿していただくよう交渉する。
  - (7) 200 編の投稿を目標とし，本邦以外の国と地域からの投稿促進努力を行う。
  - (8) 年間掲載論文の研究内容および英文の質の向上を追求する。その結果として，アクセプト率の低下も許容する。

#### 4. 学術委員会

- 1) 学会賞・奨励賞の選出  
選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い，理事会の承認を得る。
- 2) 学術委員会活動（ガイドライン，提言等の作成，広報活動）等に関する協議  
学術委員会の会合を定期的に開催し，学術委員会関連小委員会と共同して，実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。
- 3) 栄養問題検討ワーキンググループ（神田英一郎グループ長）

課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査 (SUDACHI STUDY)

大塚製薬工場との多機関共同臨床研究 (SUDACHI STUDY) を継続する。また、これまで得られたデータの解析結果を第 70 回日本透析医学会学術集会・総会で発表する予定である。

課題② 第 71 回日本透析医学会学術集会・総会でのワーキンググループ企画を検討する。

SUDACHI STUDY の進捗、透析患者の栄養摂取基準に関する文献的調査結果を、第 71 回日本透析医学会学術集会・総会で発表するため、ワーキンググループ企画を検討する。

4) 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループ (倉賀野隆裕グループ長)

慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂ワーキンググループとして改訂作業を進め、原案を評価委員会に提出、修正を加えた上で、原案をまとめ、公聴会とパブリックコメントを経て、本年中にホームページ及び透析会誌に発表する予定である。

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ (脇野 修グループ長)

改訂ガイドラインの理事会承認を得たのち、学会誌および学会ホームページに速やかに発表する。

英語版の作成を引き続き行い、本邦のガイドラインとして英文誌に掲載する。

第 70 回日本透析医学会学術集会・総会においてこれを学会員に広く公表する。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ (阿部雅紀グループ長)

2025 年の第 70 回日本透析医学会学術集会・総会にて「透析患者の糖尿病治療ガイド 2025」を書籍として発行する。発行をもってワーキンググループは解散となる。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ (深澤瑞也グループ長)

シャント系、カフ型カテーテルの各班の意見集約、並びに素案の作成を行い、残りの班の素案をお互いに修正を行う。また現ガイドラインには大きく修正は行わないものの、現状にそぐわない点の修正・追記をまとめる。その後理事会承認、パブリックコメントへ回す。

8) ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ (深澤瑞也グループ長)

昨年度内に調査結果の日本透析医学会誌への投稿を終了し、ウロキナーゼの供給再開あるいは他剤の使用が可能となる状況などの進展時に再度検討を行う。大きな進展がない場合には、解散の検討も行う。今後の代替薬等の国との折衝等は、保険委員会へ一本化し引き継ぎ交渉を進めてもらう方針。

9) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会 (酒井 謙委員長)

作成委員会は、第 69 回日本透析医学会学術集会・総会において、第 1 回の Official な会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第 9 回までの議事が進行した。

主目的は CKM 決定後の緩和ケアにおける具体的な医療とケアの実際を作り上げることにある。現行 30 名の各代表 (学会、協会、患者団体、弁護士等) で、各月 1 回の会議を経て、さらに理事会承認を経て、提言作成に向かい会議を継続する。

2024 年度 文献調査 役割分担 COI 提言タイトルの妥当性を検討をした。

2025 年度 提言各章文章作成して、第 70 回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第 1 回を行う。

2026 年度 提言和文完成 第 71 回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第 2 回を経て、公聴会 パブリックコメントを得て、和文投稿。

2027 年度 英文投稿へ

10) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会 (平和伸仁委員長)

- ・ 2025 年末の統計調査委員会調査に向けた準備；対応可能な項目の申請等の検討と依頼
- ・ 血圧管理に関する臨床課題 (CQ) の募集
- ・ CQ の決定とシステマティックレビュー (SR) 体制の確立
- ・ 家庭血圧におけるコホート研究、計画立案、倫理委員会対応、参加施設募集
- ・ 過去の調査資料を用いた血圧管理に関する研究計画、検討

11) Green Dialysis に関する検討委員会（脇野 修委員長）

2025年3月14日に承認された委員を中心に薬物療法班（班長：脇野 修委員）と医療機器班（班長：友雅司委員）に分かれて活動を行う。年2回の合同委員会をもとに最終的には学会としての提言をまとめていく。

12) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

1. Dialysis Therapy, 2024 year in review を第70回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画として開催を計画している。
2. Dialysis Therapy, 2024 year in review の各演者の先生に発表内容を日本透析医学会誌へ投稿依頼する。
3. 統計調査データを用いた公募研究の事前審査について

統計調査データを用いた公募研究の運用が理事会で承認され、2025年より統計調査データを用いた公募研究の募集が再開される。学術専門部小委員会は統計調査解析小委員会と合同で事前審査を実施し、主に学術的な意義について審査を担当する予定である。

(2) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

1. 昨年に引き続き、第70回日本透析医学会学術集会・総会（令和7年6月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画「新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦」で公表する。
2. 同じ方向性を持つ他学会（日本人工臓器学会、日本次世代人工腎臓研究会など）において、研究成果の積極的な公表に努める。
3. 学会からの活動資金の有効かつ公平な利用法についても検討する。
4. 委員会はオンラインで2回開催する。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男委員長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行う。
- ② ISO・IEC 対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべく ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行う。
- ③ ダイアライザの機能分類等について、第70回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画を開催する。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）

① 体験参加型セッションの開催

2025年度の日本腹膜透析医学会にて、医師・コメディカルスタッフの教育に関する体験参加型セッションの開催を計画している。

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催を計画している。

2025年度は第70回日本透析医学会学術集会・総会にて、学会・委員会企画10（学術委員会 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会）としてセッションタイトル「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」でセミナーを計画している。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

例年通りの方法で、令和8年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請の受付を行い、適切な応募研究課題の中から選考する。

(6) 透析医学用語集作成小委員会（脇野 修委員長）

ICD-10 から ICD-11 への変更への対応を行う。この変更に合わせて、関連学会を含め、用語変更について会議を行う。

## 5. 統計調査委員会

- 1) 2024年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告
  - (1) 2024年調査結果を2025年学会誌58巻12号に、英文報告書をRRT誌に掲載する。
  - (2) 本学会和文、英文のホームページに調査結果を掲載する。
  - (3) 2024年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。
  - (4) 調査協力いただいた非会員施設には、「わが国の慢性透析療法の現況2024年12月31日現在CD-ROM版」を作成し、配布する。
- 2) 2025年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施
  - (1) 2025年末調査の新規調査項目を選定する。
  - (2) 2025年末の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後UMINに公開する。
  - (3) 全国の透析施設に対して2025年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。
- 3) 学術研究用データ切出しシステムの改善
  - (1) 学術研究用データ切出しシステムに、より詳細なデータ抽出条件機能を追加する。
- 4) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文化
  - (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。
  - (2) 公募研究を再開し、特に若手研究者の統計調査データを用いた研究への参画を進める。
- 5) レジストリ国際協調への課題の明確化（継続事業）
  - (1) ISN主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトであるSharE-RRへ参加する。
  - (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化、JRDRの将来の改修方針の明確化
- 6) 第70回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催
  - (1) 統計調査委員会企画：1. WADDAシステムをどう使うか、2. JSDT統計調査データを用いた臨床研究
- 7) 国内・国際協力の推進
  - (1) 日本透析医会をはじめとした他学術団体、さらにはUnited State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/European Dialysis Transplantation Association等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。
- 8) 英語版ホームページの充実（継続事業）
  - (1) 透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、統計調査のホームページを充実させる。
  - (2) 英語版ホームページには英語版現況報告のPDF、英語版図説PPT、統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 9) 会員インセンティブの充実
  - (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため、地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
  - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。
- 10) Webによるデータ収集についてEDCでの入力システムを構築
  - (1) 2024年より、現在まで行っていたUSBメモリでデータ収集に加え、ダウンロードファイルをアップロードすることを可能とした、引き続きEDC入力のシステムを進める(EDC推進検討ワーキンググループ)。

### 解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされるさまざまなテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。

- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- 4) データベースのデータクリーニングの統一的な規則を策定する。
- 5) 公募研究のサポート、進捗の確認を行う。
- 6) JRDR のデータを用いた研究を論文化する際に、研究計画と齟齬がないか確認を行う。

## 6. 専門医制度委員会

透析専門医は、大学病院や基幹病院へ集中する傾向が強い他領域の専門医とは異なり、全国の透析施設すべてに1名以上の勤務配置することを目標とする。基本知識・診療技術は勿論、手術・処置技術・倫理・医療安全・感染対策・災害対策などに対する総合的な能力を身に付けることを第1義とする。内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により、患者ともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要である。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和は、腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて、補完研修ではなく独立した通常研修に該当すると考える。

- 1) 透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることとは別に、現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。
- 2) 生涯教育の一環として、全国を細則第2条の10地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。
- 3) 透析専門医は、日本内科学会と日本泌尿器科学会との透析領域別協議会（小委員会）で、基本領域専門医を透析医療と関連が深い横断的6領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）のサブスペシャルティ領域として、専門研修カリキュラムを改訂する。カリキュラム必要条件は100症例（必須60症例）、専攻医の主体的な研修の場が必要（診療部門）、かつ統一した試験問題が必要（機構要求）である。2024年第1回機構認定サブスペシャルティ領域懇談会を日本内科学会（+日本腎臓学会）とともに行ったが、2025年もサブスペシャルティ領域懇談会を行う予定である。現在、日本透析医学会では機構の変化に留意しつつ、機構からは距離を置いた姿勢に転じている。
- 4) 産前・産後の研修期間の短縮について今後の検討課題とする。
- 5) 個人情報保護法抵触について、審査の対象となる旨、規則施行細則第23条に追記することとし、3月の理事会で審議し、公表する予定。
- 6) カリキュラム小委員会（平和伸仁委員長）では、2025年に専門研修トレーニング問題解説集および専門研修指導マニュアルの改訂発行年であり、研修カリキュラム・プログラムも変更する。
- 7) 専門医制度の今後について  
委員会報告を行う予定（日本透析医学会および日本透析医学会誌）。
- 8) 各小委員会で整備した内容について検討する。
  - (1) 研修プログラム小委員会
    - ① 基本領域専門医制度と連携した専門研修カリキュラム第4版の作成を検討する。
  - (2) カリキュラム小委員会
    - ① 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。本年度は専門研修トレーニング問題解説集の改訂第6版、専門研修指導マニュアルの改訂第6版の出版を目指す。このための目次（大中小項目）の改正に着手した。
    - ② 学術集会・総会の教育講演オンデマンド視聴による単位認定のためのeラーニング問題についてのブラッシュアップを行う。

- (3) 専門医認定小委員会
  - ① 専門医と指導医の新規認定と更新を行う。
  - ② 専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数，専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。
  - ③ 地域偏在・施設偏在の解消のために，専門医数と施設数が少ない地域の基幹病院に調査を行い，立案した具体策について，偏在を解消する方策を個別に検討する。
- (4) 専門医試験小委員会
  - ① 2025 年度専門医試験を適切な感染対策のもと実施する。
  - ② 専門医認定審査は，今までと同様に書類審査，倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を含む客観式筆記試験（問題形式は A タイプ，X2 タイプ）と口答試問試験の 3 者の総合的な判断で行い，医師国家試験に準拠した試験問題作成基準を用意し，可否を決定する予定である。
  - ③ 専門医試験プール問題約 800 題の中で，優良でない試験問題（優良の定義：正答率 50～70%かつ識別指数 0.2～0.4 以上）をブラッシュアップする。また，新規に問題を作成し，写真や図表問題も多くする予定である。
- (5) 施設認定小委員会
  - ① 認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。
  - ② 今後の透析専門医認定に備えて，専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成をさらに進める。

## 7. 国際学術交流委員会

- 1. 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において下記の企画を行う予定である。
  - I. シンポジウム 以下の 2 つのシンポジウムを実施予定で公募を行っている。
    - シンポジウム (1) : Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia.
    - シンポジウム (2) : Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy.
  - II. 一般公演 (Free Communications)
    - 例年通り，公募を行った。
  - III. Farewell Reception
    - 海外からの参加者，演者，国際交流委員，日本透析医学会評議員などの学術交流の場として，大会期間に Farewell party を開催予定である。
  - IV. Travel Grant 等
    - シンポジストの招聘および Farewell Reception 開催などの予算の関係上 lower-middle income countries or low-income countries 10 万円，upper-middle-income countries or high-income countries は 5～7 万円となった。年齢制限等の条件については例年通りとなった。
- 2. 国際交流派遣事業
  - 海外関連学会への交流委員派遣は予定していない。
- 3. その他
  - 国内外で開催される，関連国際学会へ各委員が独自に参加する予定である。

## 8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第 8 回評議員選挙

日本透析医学会定款第 20 条，21 条，22 条及び日本透析医学会定款施行細則第 14 条，15 条，16 条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第 8 回評議員の選出を行う。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行う。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とする。
- 3) 同規則第7条に基づき、10月下旬に電子公告により公示を行う。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、10月下旬に電子公告により公示を行う。
- 5) 立候補者しようとする者に、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票及び得票率を開示することを前もって周知する。
- 6) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受ける。
- 7) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受ける。
- 8) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受ける。
- 9) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を12月下旬に電子公告により公示を行う。
- 10) 同規則第13条に基づき、令和8年2月15日に投票を締め切る。
- 11) 同規則第16条に基づき、投票終了後ただちに開票立会人のもとに、開票を行う。
- 12) 同規則第21条に基づき、当選者が決定した場合、当選者に通知し、電子公告により公示を行う。また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示する。
- 13) 同規則第22条に基づき、選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受ける。

## 9. 保険委員会

- 1) 2026年度改定に向けて会員からの要望を引き続きホームページで募集を行う。
- 2) 2026年度申請事項の検討を行う。

### 外保連関連

- ・体外循環補助装置設置術（短期型）（カフ型）のGコードからKコードへの移設の再申請：申請にあたり会員DPC施設でのカフ型カテーテルの状況のアンケート調査を行うこととした。また今まで短期型も申請していたが、変更に伴う医療費の上昇を加味して次回はカフ型のみ申請とする。
- ・短期滞在手術等基本料が算定できる手術を拡大要望：当学会関連手術として認可されている項目はK616-4のみ。VAに関わる手術（カフ型カテ留置、内シャント造設、バイアバーン留置、AVG、動静脈表在化、結紮術、など）も加えるように要望する。
- ・日本血管外科学会から（シャント瘤切除 or 血栓摘除）+シャント再建術を拡大算定との情報あり：現在、同手術はK612-1イ12,080点でのみ請求可能。手術手技の複雑さから、「K612-3複雑なもの」として追加を日本血管外科学会と共同して外保連試案へ提案する。

### 内保連関連

- ・腹膜透析の自宅での介助を訪問介護で行えるよう申請：腹膜透析のさらなる拡大を目指して、介助者のPD交換を認めていただくことを要望したらよいのではないかと。そのためにはしっかりと介助者に対してトレーニングを行うことが必要。このため、当会あるいは腹膜透析学会共同で資格認定を設定するよう要請することが必要。厚生労働省との折衝を行う。
- ・在宅血液透析で使用する個人用透析液A液の小容量ソフトバッグ化とB液のカートリッジ化の認可を要望：A液・B液ともに現状では液製剤であり保存場所が広く必要。また配送費が高く一部では自己負担となっていることが問題であり、コンパクト化が望ましい。B液カートリッジ化は海外で使用されているので認可される可能性は高い。厚生労働省との折衝を行う。MTジャパンとの緊密に相談要。
- ・J038人工腎臓の点数が減点しないよう要望：日本透析医会と協調し働きかけを行う。
- ・J038（人工腎臓）-4（その他の場合）に慢性維持透析濾過加算を適応するよう要望：日本透析医会とも協調

して厚生労働省へ働きかけを行う。

- ・ウロキナーゼ欠品に関して、ウロキナーゼ供給の再開は絶望的であることから、カフ型カテーテル血栓性閉塞に対して代替医薬品（t-PA）の保険収載に向けて厚生労働省と相談を継続。またシャント系血栓性閉塞に対して、より効率的に除去できるデバイスの本邦への上市を目指して、メーカーとともに厚生労働省へ交渉する。
- ・施設外血液透析における非自己管理患者に対する要望もあることから、新たな枠組みも含めて検討を行う。（現在の在宅血液透析の枠組みでは、医会策定のマニュアルに合致しないことから拡大困難）現時点では上記検討中であるが、今後更に追加での検討を行うこととする。

## 10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して、随時、研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

## 11. 腎不全総合対策委員会

1. 本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者のQOLの改善などを目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2025年度は地域の問題を踏まえた腎不全対策をテーマとして、地域の問題、保存期CKD治療の影響、栄養指導、遠隔医療などを盛り込んだ企画として、第70回日本透析医学会学術集会・総会の学会、委員会企画で5人の演者に解説していただく予定である。

タイトル「地域を踏まえた腎不全対策を考える」

- 1) 地域事情を踏まえた腎不全対策を考える～高齢化と人口減少～ 岩手医科大学 阿部貴弥先生
- 2) CKD治療薬の腎不全医療への影響～期待と現実～ 久留米大学 深水 圭先生
- 3) 透析患者のやる気を引き出すコーチング 齊藤内科クリニック 坂井敦子先生
- 4) エコー下ガイド下シャント穿刺の有用性と活用方法 桃仁会病院 人見泰正先生
- 5) 腹膜透析管理における遠隔医療技術の可能性 長崎大学 西野友哉先生

2. 腎代替療法へのスムーズな移行に関する調査研究の論文化

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を実施した結果を論文化した。日本透析医学会雑誌に投稿予定である。

## 12. 危機管理委員会

- 1) 危機管理委員会

(1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。

(2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する。

- 2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

(1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日～29日、大阪国際会議場）において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析療法災害対策における広域・行政との連携」とし、

以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめ、透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，山川智之

演題・演者

- 1) 岩手県における広域・行政との連携～これまでとこれから～ 岩手県立胆沢病院泌尿器科 忠地一輝
  - 2) 行政と透析施設の連携の課題～都道府県保健医療福祉調整本部の視点から～ 青森県立中央病院災害医療管理監，血液浄化療法部 小笠原賢
  - 3) 静岡県における災害時透析リエゾン確立に向けた試み 浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部 石垣さやか
  - 4) 広域関東圏における透析医療従事者とDMATの連携における課題 関東労災病院腎臓内科 矢尾 淳
  - 5) 奈良県における透析療法災害対策～行政との連携～ 奈良県立医科大学透析部 米田龍生
  - 6) 福岡県における災害時透析医療に関する行政との連携，および広域災害時の他県連携に関する基本方針 うえの病院血液透析内科 水政 透
  - 7) Collaboration with Regional and Administrative Authorities in Disaster Management for Dialysis Therapy Ulsan University Hospital, University of Ulsan College of Medicine Kyung Don Yoo
- (2) 第69回日本透析医学会学術集会・総会（2024年）の委員会企画の発表内容を日本透析医学会誌へ掲載する。
- (3) 日本透析医学会の理事，危機管理委員会，統計調査委員会，地域協力員は引き続き日本透析医学会の災害対策メーリングリストに参加し，災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。
- (4) 韓国腎臓学会（KSN）災害対策委員会との交流：2025年6月に開催される韓国腎臓学会（KSN2025）に演者および座長として2名を派遣する。また，第70回日本透析医学会学術集会・総会の委員会企画でDr.Yooに発表いただき，また，学術集会期間中に会合を行い，災害対策について意見交換を行う。
- 3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）
- (1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日～29日，大阪国際会議場）において，医療安全に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析医療における医療安全のための提言」とし，以下の内容で行う。さらに，その内容を委員会報告としてまとめ，透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦，満生浩司

演題・演者

- 1) 提言の概要と策定方針 医療法人社団石川記念会 安藤亮一
  - 2) 医療安全管理体制と医療安全の方策 大阪大学医学部附属病院血液浄化部 北村温美
  - 3) 透析操作関連事故防止 神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科 山家敏彦
  - 4) 抜針・回路離断事故防止に対する提言 中野南口クリニック透析 木全直樹
  - 5) 穿刺・止血関連事故防止 九州中央病院腎臓内科 満生浩司
  - 6) 転倒転落事故防止 桑園中央病院血液透析センター 小山貴也
  - 7) 薬剤関連事故防止 医療法人仁真会白鷺病院薬剤科 古久保拓
  - 8) 重大インシデント後の医療機関における組織的対応 東北大学病院腎臓・高血圧内科 宮崎真理子
- (2) 医療事故調査報告制度に協力団体として，センター調査などを担当する。
- (3) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し，必要に応じて委員の更新を行う。

### 13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき，会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施する。

- (1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
  - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
  - (3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
  - (4) その他，会員に関連した利益相反状態や，自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。
  - (5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討，審査請求に関する判断マネジメントを行う。
  - (6) 日本医学会 COI 管理部会等の講演会，会議に学会として出席し，最新情報を得る。
- 2) 今後も「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改正などが行われた場合には，委員会で検討し，理事会の承認を経て，これを周知していく。

## 14. 男女共同参画推進委員会

### 1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況，展望についての論文を投稿する。

### 2) 小委員会

#### (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状を検討する。

#### (2) 女性医師育成小委員会

##### I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT・2024 年度透析専門医勤務状況調査報告」について

第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において，学会・委員会企画 7 として，「TSUBASA PROJECT」を開催する。

- ・第 9 回「TSUBASA PROJECT」に選出された研究結果を学会・委員会企画 7「TSUBASA PROJECT」で発表してもらう。
- ・TSUBASA PROJECT 賞 6 題の中から優秀演題賞 3 演題を選出する。審査員として学会長推薦枠 2 名を選出いただいた。

##### II. 第 10 回「TSUBASA PROJECT」について

第 10 回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励，援助し，それによって透析医療の向上，女性の活躍を推進させることを目的とし，優れた研究に対して研究助成を行うものである。

### 第 10 回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会に TSUBASA PROJECT 賞として応募された抄録から，優れた演題 6 件を選出する。抄録は日本語，800 文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い，理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行し，改めて 500 文字の抄録を作成する。TSUBASA PROJECT 賞 6 題の中から優秀演題賞 3 演題を選出する。

- ① 応募研究：透析医療に関する基礎研究，臨床研究，未発表論文であること  
抄録は日本語，800 文字まで，背景，目的，結果，考察を記載すること
- ② 応募資格：日本透析医学会正会員の 45 歳以下の女性医師  
過去に受賞歴のある場合は，受賞回，題目について記載すること

- ③ 応募演題：6 件
- ④ 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として、1 件につき 10 万円を授与する。
- ⑤ 優秀演題賞：選出した 6 件の発表内容から、さらに優秀な 3 演題を選出し、特別研究助成 10 万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。
- ⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT 賞で選出した 6 件が、2 年以内に英文論文化した場合には、30 万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際して TSUBASA PROJECT の助成を受けたことに対する謝意を明記すること。
- ⑦ TSUBASA PROJECT 賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

### Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第70回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。

## 15. 感染対策委員会

### 1) 透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関する調査

2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5 類感染症」となり、同年 5 月 24 日をもって、新型コロナウイルス感染対策合同委員会による患者数の報告は終了した。また、日本透析医学会統計調査では、2000 年末から 2023 年末まで新型コロナウイルス感染症についての調査を行ったが、2024 年末からは施行していない。

2024 年 3 月 31 日で新型コロナワクチンの全額公費による接種は終了した。そして、2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで実施された、新型コロナワクチンの定期接種の対象者は、一般は 65 歳以上、透析患者は 60 歳以上と対象が限定され、費用についても各自治体において設定した自己負担額が必要となった。そして、60 歳未満の透析患者は任意接種となり、費用も全額自己負担となった。

このような背景の変化から、透析患者における新型コロナワクチンの接種状況、感染率、重症化リスクや致死率を、全体や年代別で調査する必要性が高いと考えた。さらに 2024 年から 2025 年にかけて、インフルエンザの大規模な流行が発生したことから、インフルエンザについても同様の調査を行う必要があると考えた。

以上より、透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート調査を行うこととした。このアンケート結果に基づき、患者や医療従事者に感染状況やワクチン接種の効果について啓発を行う。そして、厚生労働省など行政と、透析患者におけるワクチン接種についての交渉を行う資料として使用する。

### 2) 2025 年の第 70 回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画

第 70 回日本透析医学会学術集会・総会では、以下に提示する 2 つの感染対策委員会企画を行う予定としている。

セッションタイトル：バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防

司会：

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

丹野有道（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）

演題・演者：

#### (1) バスキュラーアクセス感染の発症とその対策

甲斐耕太郎（バスキュラーアクセスクリニック目白）

#### (2) 超音波ガイド下穿刺と感染予防

増田直仁（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）

(3) 透析用カテーテルに関連した感染対策

谷口弘美（東葛クリニック病院看護部）

(4) 腹膜透析カテーテルと腹膜透析感染予防

井上朋子（川島病院腎臓内科）

セッションタイトル：透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略

司会：

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

竜崎崇和（東京都済生会中央病院腎臓内科）

演題・演者：

(1) ワクチンと自然免疫

中山哲夫（北里大学大村智記念研究所ウイルス感染制御）

(2) インフルエンザワクチン

安藤亮一（医療法人社団石川記念会）

(3) 血液透析患者における新型コロナワクチン接種～JSDT2022 年末統計調査より～

菅原有佳（東京大学腎臓・内分泌内科）

(4) 透析患者における肺炎球菌ワクチン接種～定期接種スケジュールの変更と新たに承認されたワクチンを踏まえて～

井原宏彰（江東病院呼吸器内科）

(5) 透析患者への带状疱疹ワクチンおよびRS ウイルスワクチンの必要性

吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学）

(6) 透析患者と医療従事者に対する HB ワクチン接種

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）